

富永議員（自民議連）

平成 27 年 12 月 9 日
教育長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）グローバルリーダー育成校の具体化に向けた海外との連携について

「グローバルリーダー育成校」は、「国際社会の持続的な平和と発展を牽引できる人材」の育成に向けて、多数の外国人留学生を受け入れ、全寮制中高一貫教育校という環境の中で、国際機関等と連携したプロジェクト学習などを実施する学校とされ、また、その位置付けとして、「『新たな日本一・世界の教育県 広島』の象徴」との表現もあり、「国内のみならず世界に通用する学校を作ろう」という意気込みが感じられ、大変夢があると思う一方、非常に壮大であるが故に、果たして本当に実現できるのかという気持ちも相半ばある。

このような学校を創るためには、教育委員会や県の力だけでは非常に難しく、国や海外も含めた様々な主体と連携し、広く知恵と力を結集していくことが重要であり、特に、世界の教育ノウハウを吸収していく上でも、また、外国人留学生を獲得していく上でも、海外の関係機関との連携が極めて大切だと思う。

そこで、現在、海外の自治体の教育部門や国際機関等と、どのような連携を図っているのか、また、今後、そのネットワークをどのように強化していく予定なのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

県内全体の教育水準を向上させていくためには、海外の関係機関との連携は、極めて重要であると考えております。

このため、これまで、オーストラリア・クイーンズランド州、台湾・桃園市、カナダ・ブリティッシュコロンビア州など、7つの海外の自治体等と教育交流協定等を締結してきたところでございます。

また、本年度からは、「OECD広島創生イノベーションスクール」を実施しており、世界最大のシンクタンクであるOECDから多大なサポートをいただくとともに、アメリカの教育研究機関である「イーストウエストセンター」とも、カリキュラム開発等に係る連携を行っているところでございます。

さらに、本年11月からは、シアトル・シンガポール・メルボルン・上海など、世界の10都市以上が参加する国際教育ネットワークである「アジア・

ソサイエティグローバル・シティ教育ネットワーク」に、日本から唯一、参加を求められたところでございます。

「グローバルリーダー育成校」の実現に向けましては、これらのネットワークを最大限活用していくことが不可欠であり、例えば、この学校のカリキュラム等の開発にも加わっていただくなど、更なる連携の強化を図ってまいりたいと考えております。